

すくすく

たけのこキッズ

第 22 号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成18年3月22日発行

溶連菌？アデノウイルス？



クリニックから自宅まで歩いてみますと、ちょうど梅が満開です。目を楽しませてくれるだけでなく、花の香りがホッとさせてくれます。さて、インフル

エンザの流行がほぼ終息した一方で、溶連菌感染症やアデノウイルス感染症がぼつぼつ見られます。ともに発熱を伴ってのどの痛みを訴えますが、治療が全く異なりますのでしっかり診断して治療につなげる必要があります。また鼻水が続く子どもさんの中には小中学生だけでなく、2、3歳といった低年齢であってもアレルギー性鼻炎が混じっています。これもしっかり診断してそれにあった適切な薬の選択が必要です。

溶連菌感染症

昔、猩紅熱（しょうこうねつ）という病がありました。高熱と発疹があり、流行することで大変こわがられました。現在ではこの病は溶連菌、正確には「溶血性連鎖球菌」という菌が原因で起こることが知られています。溶連菌感染症では扁桃炎、頸部リンパ節炎などの症状に加えて、



典型例では舌が赤くなって表面に小水泡様のブツブツができ（これをイチゴ舌といいます）、また60～70%の例ではかゆみを伴う全身の発疹が見られます。さらに、他の症状が落ちついた時期（回復期）に手足の皮が



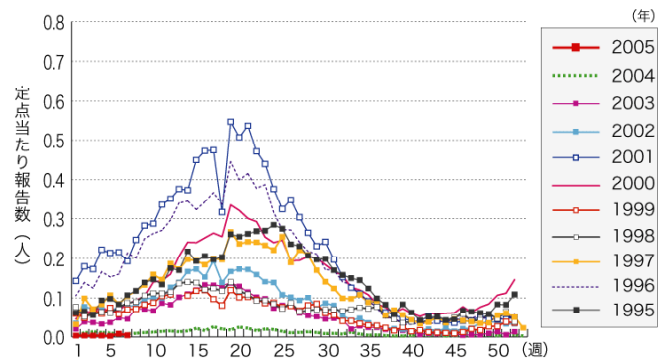
薄く剥がれ落ちるのが見られることもあります。治療としては抗生物質がよく効きます。1～2日内服すれば、登校園停止は解除されます。ただ、症状が落ちついた後でも勝手に薬をやめると痛い目に遭うことがあります。不完全な治療により菌を残すと急性糸球体腎炎といった腎臓の合併症を起したりする事もあるのです。医師の指示に従って10～14日程度の抗生剤内服を確実に行って下さい。きちんと抗生剤を飲めた場合は特に尿検査は必要ないと考えられますが、飲み忘れが多かったり途中で嘔吐下痢症などで飲めなかったりした場合には、半月後くらいに尿検査をしておいてください。

4月よりMRワクチン開始

いよいよ4月からMRワクチンがスタートします。このMRとは麻疹（Measles）と風疹（Rubella）の頭文字をとったもの、すなわちMRワクチンとは麻疹風疹混合ワクチンということです。今回の予防接種法の改正により、混合ワクチンとなると同時にこのMRワクチンの2回接種というものが始まります。

まず質問されるのが、混合して充分免疫がつくのか副反応が強くないかと言うことです。日本ではワクチンは一つずつ接種されていましたが、海外では従来より複数のワクチンを同時に接種するのが当たり前となっています。免疫もちゃんとついていきますし、副反応については従来のワクチンと同等です。

図. 麻しんの週別発生状況（1995～2005年第7週）



次に質問されるのはなぜ2回接種になるのかということです。これは、麻疹や風疹の流行がなくなってきたためです。上のグラフに示すように麻疹は2004年以降ほとんど流行していません。これは風疹も同様です。流行があった時代にはワクチンで得られた免疫（一種の記憶）はそれらのウイルスと接触することで、その都度復習して高い免疫（しっかりとした記憶）を維持することができました。流行がなくなると、こういう復習をする機会がなくなり免疫が低下してしまいます。ちょうど学生時代に歴史の年号や数学の公式を覚えても、卒業して教科書を見る機会がなくなるとだんだん忘れてしまうようになります。そして、免疫が低下した（記憶がなくなった）あとでたまたまウイルスに接触すると、残念ながらかかってしまう事態が起こるのです。そうならないように忘れる前にもう一度復習しておく機会をワクチンでというのがこの2回目の接種の目的です。「流行していないのになぜ2回も打つの？」ではなくて「流行しなくなったからこそ2回打つ！」、現在はそういうところまで麻疹や風疹の流行が押さえられてきた時代なのです。

貝塚市休日急患診療所出務

4月は川崎の出務日があります。

4月9日（日）午前10～12時、午後1～4時